

近代酪農の発展に向けて (株式会社狩勝牧場)

＜法人の概要＞

所在地：北海道新得町

設 立：昭和53年

資本金：5,000万円 売上高：1億9,700万円（平成27年3月）
（うち農業：1億9,700万円、うち農業関連事業：0円）

役 員：5名（うち農作業従事1名）

従業員数：7名、うち農業従事者7名

経営面積：348ha（うち畑129ha）営農作物：牧草、飼料用トウモロコシ
農業開始時期：昭和45年（（株）狩勝牧場としては昭和53年）



牧場施設



管理事務所

＜農業参入に至った経緯・動機＞

創業者は地域社会への報恩事業として私財を投じ、施設の近代化と経営規模拡大による国際競争力のある大規模酪農を目指し、昭和45年に狩勝牧場を設立。

取得した山林・原野約350ヘクタールに草地造成、牛舎・サイロ等の施設建設を行い、牧場用機械・家畜の導入により昭和46年から搾乳事業を開始した。（丸八殖産（株））

＜農業参入することを決めてから営農開始まで＞

牧草地の造成後、昭和40年後半には、暗渠排水用のパイプ強度、排水のための副資材の試験により、各種公共事業等の対象となる排水パイプの製品化への協力や除草剤の散布試験など北海道農業の近代化に向けた支援を継続して行っている。

昭和53年に、乳牛部門を（株）狩勝牧場をとって独立させ、施設・機械等は賃貸、粗飼料（牧草等）は、丸八殖産（株）から購入することにより事業を展開してきた。

＜営農開始から現在まで＞

飼養管理においては、自給飼料の割合を高めるため、飼料用トウモロコシに加え、昭和59年から草種をオーチャードグラス主体からチモシーとクローバー中心とした混播に順次更新するとともに、バンカーサイロを増設したことで給餌方法をコンプリートフィードに変更したことなどもあり、搾乳牛1頭当たりの乳量も増加している。

現在では、101haの牧草地（チモシーとアルファルファの混播等）、飼料用トウモロコシ28haの良質な粗飼料をもとに、家畜（290頭：成牛196頭、育成牛94頭）を飼養している。乳量も経産牛1頭当たり10,000kgを超えるなど高水準の安定した経営を展開している。

平成21年の農地法改正後、平成23年4月農地を賃貸借したことにより、（株）狩勝牧場が家畜と農地の管理を一体的に行うことができるようになった。



牧草の収穫



飼料用とうもろこしの収穫

＜今後の農業経営の展開方向＞

引き続き、農地の有効活用を行うとともに、平成25年から草地整備と排水改良（暗渠）の補助事業を実施することにより、より良質な粗飼料を確保し生産性の向上を図ることとしている。

＜今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス＞

農業経営に当たっては、事業管理、人事管理を第一義に考えなければならない。



バンカーサイロ（サイレージ貯蔵）



ミルキングパーラ（搾乳風景）